



『無能の人』DVD

公開年 1991 監督 竹中直人 製作 松竹第一興行
出演者 竹中直人、風吹ジュン、三東康太郎 他
撮影 佐々木原保志 照明 安河内央之
録音 北村峰晴 美術 斎藤岩男 編集 奥原好幸

無能の人

多摩川の河原で石を
売る男とその家族を、
ユーモラスかつ温かく
描く。



『ゲンセンカン主人-つげ義春ワールド-』
(ワイズ出版)

公開年 1993 監督 石井輝男 製作 キノシタ映画作品
出演者 佐野史郎、横山あきお、中上ちか 他
撮影 石井浩一 照明 小中健二郎 録音 北村峰晴
美術 丸山裕司、藤木光次 編集 奥原好幸

ゲンセンカン主人

「李さん一家」「紅い花」
「ゲンセンカン主人」「池袋
百点会」を元に、日常に起
きた奇妙な出来事を4つの
エピソードから描く。

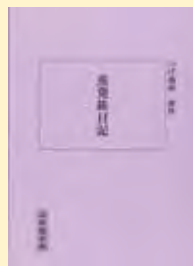


『ねじ式』パンフレット

公開年 1998 監督 石井輝男 製作 石井プロダクション作品
出演者 浅野忠信、藤谷美紀、藤森夕子 他
撮影 角井孝博 照明 野口素胖 録音 曾我薫
美術 松浦孝行 編集 神谷信武

ねじ式

「ねじ式」をはじめ「もっ
ぎり屋の少女」「やなぎや
主人」などのつげ漫画を
オムニバス形式で描いた
作品。



『蒸発旅日記』最終撮影機台本

公開年 2003 監督 山田勇男 製作 ワイズ出版
出演者 銀座吟八、秋桜子、清水ひとみ 他
撮影 白尾一博 照明 宮下昇 録音 鈴田秀彦
美術 木村威夫 編集 白尾一博、斎藤禎久

蒸発旅日記

新しい生き方を求めて旅
に出るマンガ家を描く。
同名作品のエッセイを中
心に、「西部田村事件」等
も取り入れ映画化。



『リアリズムの宿』プレスシート

公開年 2004 監督 山下敦弘 製作 ビターズ・エンド
出演者 長塚圭史、山本浩司、尾野真千子 他
撮影 近藤龍人 照明 向井康介 録音 古谷正志
美術 宇山隆之 編集 山下敦弘、定者如文

リアリズムの宿

同名作品と「会津の釣り
宿」を元に映画化。二人の
青年が繊りなす、あての
ない、おかしく切ない旅
を描く。



「マンガ家・つげ義春と調布」展

調布市文化会館たづくり 2階
北ギャラリー

2023年1/5(木)~1/22(日)
10:00~18:00

つげ義春 略年譜

1937	S12	0歳	4月(戸籍上は10月30日)板前である父一郎、母ますの次男として東京都葛飾区に生まれる。
1941	S16	4歳	弟が生まれる(マンガ家・つげ忠男)。母の郷里である、千葉県大原町の漁村小浜へ転居。
1942	S17	5歳	父、出稼ぎ先である東京の旅館にて亡くなる。
1946	S21	9歳	母が再婚。「のらくろ」「冒険ダン吉」などの漫画にふれる。
1950	S25	13歳	小学校卒業。中学へは行かず兄の勤め先のメッキ工場に就職。
1953	S28	16歳	マンガ家を志し、手塚治虫をトキワ荘に訪ねてプロになる決意を固める。
1954	S29	17歳	メッキ工場に勤めるかたわらマンガを描き、4コママンガ「犯人は誰だ!!」が「痛快ブック」に掲載される。
1955	S30	18歳	貸本マンガ『白面夜叉』(若木書房)で単行本デビュー。
1960	S35	23歳	雑誌「Meiro」(若木書房)の編集を任され、表紙やエッセイなども担当。
1965	S40	28歳	辰巳ヨシヒロの興した出版社(第一プロダクション)にSFや青春ものを描く。
1966	S41	29歳	長井勝一が創刊した「月刊漫画ガロ」に「沼」「チーコ」「初茸がり」を発表。水木プロで働くため調布市へ転居。
1967	S42	30歳	水木プロの仕事のかたわら自作も発表。漫画評論誌の「漫画主義」に注目される。高野慎三、石子順造らと知り合う。「山椒魚」「李さん一家」「紅い花」などを発表。
1968	S43	31歳	旅行を題材にした<旅もの>が好評を博す。本格的なカメラを購入し、旅先での風景を撮影。調布市内の「睦荘」へ転居。「二岐渓谷」「ねじ式」「ゲンセンカン主人」などを発表。
1970	S45	33歳	調布市内「ひなぎく荘」へ転居。
1974	S49	37歳	喫茶店開業の予定で荻窪に転居するが2カ月で戻り、調布市内「酒井荘」へ転居。
1975	S50	38歳	状況劇場の女優、藤原マキと結婚。マキさん、京王閣でアルバイト。11月、長男が誕生。
1976	S51	39歳	「紅い花」がテレビドラマ化され、NHKで全国放送。調布市内の「富士マンション」へ転居。
1977	S52	40歳	マキさんが癌を患い、大塚の癌研病院に入院。
1978	S53	41歳	念願の住宅を手入れ、「多摩川住宅」に入居。将来古本屋や骨董品店を開業する予定で古本マンガ、中古カメラを収集。
1981	S56	44歳	古物商の免許を取得。「ピント商会」を設立し中古カメラ売買の副業を始める。

1982	S57	45歳	マキさんが『私の絵日記』(北冬書房)でデビュー。
1983	S58	46歳	「小説現代」に「つげ義春日記」を連載。
1984	S59	47歳	「COMICばく」(日本文芸社)に3年ぶりに「散歩の日々」「池袋百点会」を発表。
1986	S61	49歳	千葉館山で乞食生活を続ける浄土宗尼僧と出会い生き方に心打たれる。家族で小旅行。「探石行」「カメラを売る」「やもり」「蒸発」を発表。
1991	H3	54歳	息子の高校入学を祝い、奈良、木曾を旅行。「無能の人」が竹中直人監督により映画化。自宅近くのロケ見物に出かけ、ワンカット出演。団地の役員を1年間つとめる。
1992	H4	55歳	不整脈が始まり、10年間続けた水泳をやめる。クラシック音楽を聴き始める。石井輝男監督「ゲンセンカン主人」映画化撮影開始。
1994	H6	57歳	市内で転居。体調がすぐれず、眼病、耳鳴り、不整脈、腰痛、新たにリウマチも加わる。
1995	H7	58歳	『つげ義春全集』(筑摩書房)が完結。「通販生活」(カタログハウス)で旧作が1年間再録される。
1997	H9	60歳	妻の癌が新たに見つかる。
1998	H10	61歳	看病のため病院と家の往復の日々。石井輝男監督の映画「ねじ式」が公開。テレビ東京系列で「つげ義春ワールド」放送される。
1999	H11	62歳	1月、母ます死去。3月、マキさん死去。
2002	H14	65歳	「蒸発旅日記」が山田勇男監督により映画化。調布の撮影所へ見物に行く。
2004	H16	67歳	『無能の人』仏語版発売。伊の建築デザイン誌に『ねじ式』翻訳掲載。「リアリズムの宿」が山下敦弘監督により映画化。
2005	H17	68歳	『無能の人』が、仏のアングレーム国際漫画フェスティバルの「遺産賞」にノミネート。
2006	H18	69歳	韓国のマンガ誌に「ねじ式」翻訳掲載。北冬書房のWebサイト「万力のある家」にて、「つげ義春旅写真」不定期連載開始。
2011	H23	74歳	府中市美術館で開催された「石子順造の世界 美術発・マンガ経由・キッチン行」に「ねじ式」の原画が展示される。
2017	H29	80歳	第46回日本漫画家協会賞大賞を受賞。月蝕歌劇団が「ねじ式・紅い花」を舞台化。
2019	H31・R元	82歳	六本木ヒルズにて「つげプロジェクトVol.1 ねじ式展」開催。
2020	R2	83歳	アングレーム国際漫画フェスティバルにおいて、マンガ表現を革新した功績に対し「特別荣誉賞」を受賞。初の本格的原画展の会期に合わせ渡仏。前年発売された仏語版「紅い花」も「遺産賞」にノミネート。
2021	R3	84歳	功績のある芸術家を顕彰する日本芸術院に新しく設置されたマンガ部門の会員となる。
2022	R4	85歳	『つげ義春 名作原画とフランス紀行』(新潮社)刊行。

<参考:「つげ義春 夢と旅の世界」(新潮社)、『つげ義春大全別巻1』(講談社)>

コラム 妻、藤原マキさんのこと

藤原マキさん(1941-1999)は、唐十郎主宰の状況劇場の舞台女優として活躍しました。結婚後は妻として、母としての視点で家族との出来事を『私の絵日記』(北冬書房)にまとめたほか、絵本『こんなおみせしってる?』(福音館書店)、画集『駄菓子屋』(ワイズ出版)などを出版。

“家事がすんだ後、毎夜おそくまで、息子が「かーちゃんの部屋」と呼んでいた台所でせせっと書いていましたね”
 …『妻、藤原マキのこと』つげ義春『私の絵日記』(学習研究社)より

『つげ義春日記』の中でも、得意料理のすいとんを作ったことが記されている



マキさんによる夫、つげ義春のスケッチ



2月8日 “おとうさんがつくるすいとんは天下第一品”(『私の絵日記』)

コラム 「旅」を好む、つげさん

日本各地を訪ね歩いた「旅」の風景や出来事は、多くの作品になっています

1966年からの旅年譜が、『つげ義春資料集成』(北冬書房)にエッセイとして発表されました。『貧困旅行記』(晶文社)の中に収められた「奥多摩貧困行」では、1985年に、家族で御岳や網代鉱泉付近を旅した時の様子が綴られます。

“私の場合は行楽としての温泉には関心がなく、昔ながらの地味で面白味のない湯治場に惹かれていた”
 …『つげ義春の温泉』(筑摩書房)



「つげ義春 旅マップ」より

①中華料理八幡 ②八幡神社

多忙になった水木しげるさんに頼まれ仕事を手伝うことになったつげさん。1966年、調布に転居して中華料理八幡のアパートに住むことになる。つげさんの名前を一躍有名にした「ねじ式」は調布が描かれている作品ではないが、このアパートで生まれたエポックメイキングな作品である。

「ある無名作家」には、水木プロダクションをモデルにした「Aプロダクション」や西調布の旧甲州街道沿いの風景が描かれる。

展示会場の「調布巡礼」写真には、八幡神社の境内に座るつげさんの姿が撮影されている。

③ひなぎく荘

「事件」「退屈な部屋」などにひなぎく荘として登場するアパート。1970年から居住。『つげ義春を旅する』（高野慎三著・筑摩書房）によれば、つげさんは「まわりは殺風景な所だったけど、うしろに森があって、アパートの裏に小川が流れて泥鰌が泳いでいたのすぐに気に入って決めたんです」とのこと。「つげさんはこの景色がお気に入りだった」と、大家だった小川さんのご家族も記憶している。また、「夏の思い出」に描かれたとんかつ屋は小川さんが営んでいたお店にそっくりだという。

⑥多摩川 ⑦富士マンション

「無能の人」「石を売る」の主人公が石を採集するのは日活撮影所の辺り、多摩川住宅に近いエリアなどが描かれるが、石を売っていたのは京王相模原線の鉄橋の近くである。「日の戯れ」にも登場するが、昔懐かしい“渡し”や貸しボートが描かれている。

主人公が富士マンションに住んでいる「近所の景色」では、隣接する狛江市で大きな被害を出した1974年の多摩川水害の様子を描いた場面もある。

④京王閣競輪場 ⑤酒井荘

「日の戯れ」で主人公の妻がアルバイトしているのが京王閣競輪場。酒井荘に住んでいた当時、実際に妻のマキさんが車券売り場でアルバイトをしていた。その経緯はエッセイ「妻のアルバイト」に詳しい。

競輪場は「石を売る」にも描かれているが、半円形の建物は解体され、当時の面影はない。



京王閣競輪場付近

⑧野川 ⑨市民プール ⑩祇園寺 ⑪京王線ガード下

『つげ義春日記』にはマキさんが長男を連れて市民プールへ行ったことが書かれている。また、「散歩の日々」は市民プールのシーンから始まる。ある日の散歩ルートは野川を通して祇園寺らしき寺へと続き、またある日は、子どもの手を引いて京王線ガード下を思わせる場所を通る。祇園寺はマキさんの「私の絵日記」にも登場し、特徴的な石像が描かれている。



京王線ガード下

⑫ヘビ山

「鳥師」の中で「ソメ地の富士見坂」「富士見坂はヘビ山とよばれ以前は森だった」というセリフが出てくる。つげさんによると、この場所は「『mamushiが出るので注意』という立て札もあった」「特定の場所を記したのは、そうした研究調査する人にも知ってほしかったからでもある」とのこと。（講談社『つげ義春大全』第19巻・高野慎三氏の解題より）現在この地域は、南関東では数少ない縄文時代晩期の遺跡「国指定史跡下布田遺跡」となっている。



⑬多摩川住宅

隣接する狛江市にまたがり、総戸数約3,900戸の多摩川住宅。給水塔が5基もある団地は全国的にも珍しく、給水塔ファンの間で「聖地」と呼ばれている。つげさんは1978年、ここに念願の分譲住宅を手に入れる。現在は建て替えのため一部が取り壊され、給水塔も4基となった。

多摩川住宅の風景は「石を売る」「鳥師」に象徴的な給水塔とともに描かれ、『つげ義春日記』でも団地界隈の日々の暮らしが綴られている。

「散歩の日々」では家族が盆踊りを踊るシーンがある。「そろた そろたよ」の歌詞は、実際に団地祭りで踊られていた「多摩川団地音頭」である。



給水塔と多摩川住宅の風景

⑭布多天神社

現在も毎月第2日曜日に市が立つ布多天神社が登場する「カメラを売る」。ここに描かれる「アンチック 奈加多」は、八幡神社の近くに実在した骨董品店がモデルと思われる。

布多天神社の付近には「退屈な部屋」のモデルになった建物があった。

つげさんにゆかりのある場所



「ねじ式」

① 中華料理八幡

⑧ 野川



「散歩の日々」



⑩ 祇園寺

「散歩の日々」



「カメラを売る」

⑭ 布多天神社



「事件」

③ ひなぎく荘

② ハ幡神社

飛田給

西調布

甲州街道

国領

柴崎

つつじヶ丘

⑪ 京王線ガード下



「散歩の日々」

⑥ 多摩川



「石を売る」

⑤ 酒井荘



「日の戯れ」

④ 京王閣競輪場



「日の戯れ」

⑦ 富士マンション



「近所の景色」

⑨ 市民プール



「散歩の日々」

⑬ 多摩川住宅



「散歩の日々」



「鳥師」

⑫ ヘビ山